人権歴史ゼミ　10月10日レジメ

第６紙　上段

御ゑひどう　御影堂（新善光寺）―扇造り（平敦盛の妻が尼となって本寺で扇を作ったという伝説がある）。五条橋西詰の袂に扇塚がある。

五条通の拡張により滋賀県長浜市に移転。付近は御影堂町。

☆京都にある新善光寺―泉涌寺内・下寺町の寺院群の一つ。

五条のてんし（五条天神社）―おけら詣

現在八坂神社で行われている「おけら詣」は本来この神社の節分前夜の行事である。

『京童』には「毎年せちぶんに入、みなまうでて、おけら餅などうくは、やまひをのぞく例なり」とある。

☆旧五条大路が意味するもの　清水寺への参詣道（「梁塵秘抄」）。

何れか清水へ参る道、京極下りに五条まで、石橋よ、東の橋詰四つ棟六波羅堂、愛宕寺、大仏（雲居寺）深井とか、それを打ち過ぎて八坂寺（以下略）

☆六波羅探題の関東武士　立ち君　遊女の話　女性と出会う場所　「狂言」の設定

玉津島神社（現新玉津島神社）和歌の神様として平安時代から信仰があった。

松原通の名称起源説－この神社への参道の松並木

いなばやくし　因幡薬師　猿引の集住地　（上杉本洛中洛外図洛外図）悲田寺・馬市

ぶつかうじ　仏光寺　秀吉の東山大仏殿建立の替え地として、天正一四年（一五八六）に現在地に移転させられた。北は仏光寺通・南は高辻通で、高倉通に門を開く。

下段

五条のはし　五条の橋

付はしとおり　橋通り（新五条通り）

六かく（？）太子堂（下寺町にある白毫寺か？）

第７紙　上段

にしもんぜき　西門跡（西本願寺）―秀吉の政策により天正一九年（一五九一）に七条堀川一帯の地を賜り、大阪天満から移転。諸堂を整備したが、慶長元年の大地震で倒壊。翌年から順次再建した。

三この松　三鈷の松―東寺の金堂前にあった松と思われるが不明。

とうじ　東寺（教王護国寺）―南の九条大路に正門を開き、東は大宮大路（大宮通）、北は九条坊門小路（東寺通）、西は壬生大路（壬生通）に囲まれた方二町。北側に多くの塔頭がある。境内の東南に建つ五重塔は正保元年（一六四四）の再建。

☆東寺巷所に住んだ散所民

下段

ひかしもんぜき　東門跡（東本願寺）―慶長七年（一六〇二）教如が徳川家康より東六条の四町四方の地を与えられ本願寺から別立した。江戸時代の建造物の多くは幕末の大火で焼失。現在の建物は明治期に順次再建されたものである。

あまでら　尼寺（遍照心院　大通寺　六孫王神社が鎮守社）―源実朝の妻が実朝の菩提を弔うために建立した。源氏ゆかりの寺として隆盛した。塔頭も多くあり、江戸時代には庭園が有名であったが、明治四五年の鉄道線路拡張建設のため、現在地の西九条比永城町に移転した。『十六夜日記』の作者である阿仏尼の墓があるが、これは東寺の北にあった安井塚を、冷泉為村が遍照心院の塔頭成就院に遷し供養したものである。

さいぢのつか　西寺の塚―東寺と対照的に位置したが、中世初期には荒廃。『山城名勝志』に「今旧跡東寺西三町許ニアリ、金堂跡僅ニ田間ニ残ル、今松尾祭ノ日、神供ヲ備ル所也」とある。

らせうもん　羅生門（羅城門）―朱雀大路南端に建ち、平安京の正門。大風により倒壊したが再建。天元三年（九八〇）七月の暴風雨で半壊した後は、壊れるにまかされたといわれる。『今昔物語』に「羅城門上層ニ登リテ死人ヲ見シ盗人ノ語」が載る。

第８紙　上段・下段

しまばらあげや　島原揚屋

豊臣秀吉政権による京都での公娼制度の成立

二条柳町－秀吉政権の京都改造政策の一つとして、それまで各所にあった遊女町を、現在の中京区柳馬場二条上がる付近に集めた。天正一七年（一五八九）には成立していた文献がある。

六条三筋町（六条柳町）－二条城を建造した徳川政権にとっては、二条大路は大手筋にあたるため、二条柳町が邪魔になり、慶長七年（一六〇二）に六条三筋町に移転させる。範囲は東は室町、西は西洞院、北は五条、南は魚の棚を限る。上の町・中の町・下の町の三筋の横の通りがあった。

西新屋敷（島原）－寛永一八年（一六四一）に朱雀野に新しい地を開発して移転させられる。江戸時代を通じて唯一の公許の遊郭であった。

四方を堀で巡らし、入口は東北部に一ヵ所しかなく、大門があった。廓内は六町（上之町・中之町・下之町・中堂寺町・太夫町・揚屋町）に分かれ、最盛期の元禄時代（一七〇〇年頃）には家数一九六軒という資料もあるが、安永三年（一七七四）の記録では、家数七〇軒（傾城屋三一軒・揚屋二一軒・茶屋一八軒）とある。

祇園・先斗町・北七軒・宮川町などは、島原支配下の出稼ぎ地として黙認されたもので、公許の遊郭ではなかった。あくまでもお茶屋である。